

# 地域蘭学者門人帳データベースについて

青木歳幸・長田直子・細野健太郎

Database on Student Records of Regional Rangaku Scholars

- ①蘭学者門人帳について
- ②門人帳のデータ入力について
- ③地域蘭学者門人帳データベースの仕様について

## [論文要旨]

本稿は、地域蘭学の共同研究の目的である地域蘭学者データベースについて、このデータベースの意義、蘭学者門人帳とはなにか、データベースに活用した蘭学者門人帳の解題、門人帳データベースの仕様をまとめたものである。

このデータベースの第一の意義は、江戸時代に一万人を越す蘭学者の存在を数量的にあきらかにできたことである。従来の蘭学研究では、無名で知られていなかつた蘭学者の名前が大量に発掘された。このことは、従来の蘭学研究がいかに頂点的蘭学者の資料や、幕府・諸藩の先端的研究や資料などに依拠してきた研究であったかをものがたるものであろう。

データベースに使用した諸門人帳を可能な限り原典にあたり解題を加えた。これだけの蘭学者門人帳の一挙解説は初めてのことである。蘭方医の門人帳だけでなく、大村益次郎ら砲術門人帳、漢蘭折衷医門人帳などの解説を加えたことで、その性格の違

いをみるとよ。とくに、幕末から明治にかけての美濃大垣江馬家塾のありかたは、武士層にかたより、軍事科学化したといわれてきた幕末の蘭学の様相とはことなって、医療活動をつづけていた地域蘭学者のあり方を示すもので、これが一般的な姿であったことをうかがい知ることができよう。

データベースの仕様については、入力項目を番号、人名、記載地名、現都道府県、入門年月日、退塾年月日、師匠、塾名、所属ほか、記載年齢、統柄、別称ほか、請人、出典、その他、とした。それぞれの解説を付した。選定されたこれらの項目は、これからの中世人物データベースの基本形ともなる。